

## 京都の学習院の丁祭と論議

「丁祭」とは、毎年陰暦2月、8月はじめの丁の日に  
行なう祭儀。儒教の祖である孔子を祀る式典で「釈奠」  
とも称するが、京都の学習院では、幕府をはばかって  
この名を用いた。現在でも丁祭（釈奠）は、孔子の故  
郷である中国大陸では言うに及ばず、湯島聖堂（東京  
都文京区）や足利学校（栃木県足利市）、多々聖廟（佐  
賀県多久市）など日本各地で目にすることができる。

京都の学習院では、嘉永3年（1850）2月に初の丁  
祭が挙行された。その詳細は、当館所蔵の「丁祭記」  
などに詳しく、当日には祭儀に先立って「論議」と称  
する「経書」（儒教の経典）にかんする公開討論も行わ  
れたのだという。

それではこの「論議」には、どのような人物が参与  
していたのだろうか。上掲「丁祭記」などによれば、  
その列席者は、東坊城聡長や五条為定、また舟橋在賢  
など菅原氏、清原氏の末裔であった。両氏は古より学

問の家として名高く、大学寮の教官（博士）を輩出し  
てきた歴史を持つが、再びこの学習院において彼らに  
活躍の場が設けられたことは、特筆に値しよう。

（中嶋諒）



丁祭記（嘉永3年～安政4年）

### 【コラム】湯島聖堂の釈奠

湯島聖堂は、徳川5代将軍綱吉によって建てられた孔子の廟である。  
元禄4年（1691）に竣工し、同年2月には釈奠が行われている。京都  
の学習院の丁祭で用いられた器物の存否は不明であるが、湯島聖堂伝  
来のものは、現在、東京国立博物館などに保管されている。これらは、  
当時の祭儀の様子をいまに伝える貴重な資料といえるだろう。

（中嶋諒）

- ・爵：「爵」は「酌」と同じで、酒がくまれる器のこと。「玄酒」（清めた水）  
が注がれた。
- ・象尊・犧尊：「尊」は「樽」と同じで、酒を入れる樽のこと。魔除け  
の動物とされる象や牛（「犧」は牛のこと）がかたどられた。



牡丹唐草金銀象嵌燭台  
（元禄2年 前田綱紀献納）



爵（左・中 安永4年 井伊直幸献納）  
（右 安永3年 相良長泰献納）

象尊（安永4年 保科容頌献納）

犧尊（安永4年 保科容頌献納）

（いずれも東京国立博物館所蔵）Image: TNM Image Archives

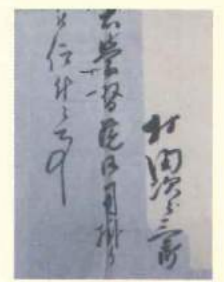
恐れ入りますが、画像の閲覧をご希望の方はミュージアムレター本紙をご覧ください

## 志士たちが集う学習院

安政5年（1858）、安政の五カ国条約調印を巡って朝  
廷と対立した幕府は、その融和を図るため和宮降嫁を  
行い、公武一和への舵を切った。一方朝廷は薩摩藩・  
長州藩に対して様々な政治勢力を取り結ぶ「周旋」を  
命じることになるが、長州藩への周旋勅命は学習院で  
行われている。

文久2年（1862）正月、初めて長州藩の関係者が学  
習院を訪れた。徳山藩主毛利元蕃が長州藩主毛利慶親・  
世子定広の代理として年頭祝儀の挨拶に伺候したの  
である。次は同年7月、長州藩主慶親が議奏と武家伝奏  
に面会した。この際、江戸に下った勅使大原重徳に出  
された周旋事項が貫徹するよう長州藩でも周旋するよ  
うにとの命を賜った。この周旋事項の事を長州藩では  
「学習院御用」と呼び、それに従事する者を「学習院御  
用掛」と呼んだ。学習院御用掛には、桂小五郎や高杉  
晋作、久坂玄瑞、周布政之助など、有名な幕末の志士  
たちがその名を連ねている。右上の写真は、長州藩政

の改革に尽力した村田  
清風の息子、次郎三郎  
が学習院御用掛に任命さ  
れた際のものである。こ  
れ以降、長州藩の人々は  
度々学習院を訪れて武家  
伝奏や議奏、あるいは国  
事御用掛や国事参政な



（学習院御用掛仰付らる事）  
（文久2年 村田清風記念館所蔵）

どといった武家とのパイプ役になる公家たちと面談を  
行った。さらに文久3年2月、朝廷は草莽の志士たち  
が学習院に於いて時事を建言することを許可した。こ  
れによって学習院は志士らの朝議介入を許す窓口とし  
て広く開かれたのである。

しかし同年8月18日、八月十八日の政変が勃発し尊  
攘派の長州藩士らが京都から追放された。これにより  
学習院は再び落ち着きを取り戻していった。

（E F 共同研究員 橋本佐保）



『三条実美公履歴』（明治40年）

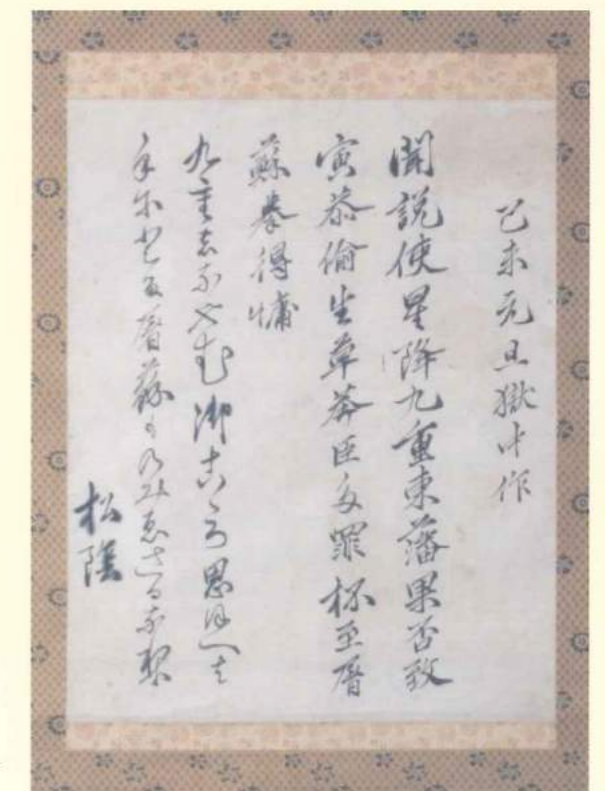
### 【コラム】吉田松陰「己未元旦獄中作」

吉田松陰が、自らの没年でもある安政己未（6年/  
1859）の元旦に、獄中で詠んだとされる漢詩（七言絶句）  
と和歌。いずれも年頭に飲む屠蘇を手にしながら、獄中  
で何をするでもない我が身の不甲斐なさを嘆いている。  
「九重」とは、大空のことを指すが、ときに天子の住ま  
う宮殿のことをいう。ここで松陰は、天皇が蔑ろにされ  
ている当時の情勢を憂えているのである。

（中嶋諒）

己未元旦獄中作 己未の元旦 獄中に作る  
聞説使星降九重 聞く説らく 星をして九重より降  
らしむるを  
東藩果否致寅恭 東藩 果たして寅敬を致すや否や  
倫生草莽臣多罪 生を倫む 草莽の臣 罪多し  
杯至屠蘇拳得鄙 杯 屠蘇に至るも 拳げ得て鄙し  
九重の なやむ御こゝろ 思ほへば  
手にとる屠蘇も のみゑざるなり  
松陰

○平声 ●仄声 ◎押韻（上平声・冬韻）



吉田松陰「己未元旦獄中作」（安政6年）